

下水道施設維持管理システムについて

1. システムの概要

下水道施設維持管理システムは、相模原市の下水道事業における情報蓄積プラットフォームとして、下水道施設台帳管理業務、維持管理業務、窓口業務等で活用している。

2. システム構成

庁内情報ネットワーク内にサーバを設置し、オンプレミス方式で運用している。本庁舎及び津久井下水道事務所の専用端末と職員業務用端末から接続が可能で、相模原市の下水道業務を実施している担当課全ての端末で利用している。

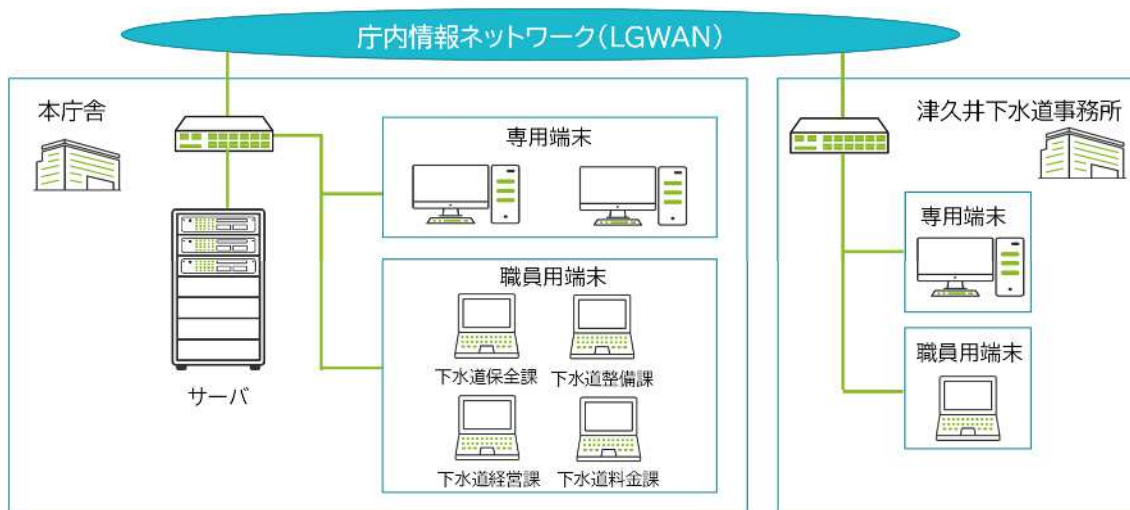


図1 ネットワークシステム概略図

3. システムの運用

下水道維持管理システムで運用しているデータは、下水道台帳管理システム標準仕様（案）・導入の手引き（日本下水道協会）に準拠しており、下水道管路施設情報及び維持管理情報、ストックマネジメント情報を蓄積・管理している。

下水道管路施設情報は、工事竣工図を基に年1回データ更新を実施している。また、下水道維持管理システムからは、図形情報はシェープファイル、属性情報はCSVファイルで提供可能である。

維持管理情報は、下水道施設維持管理システムへの取り込みは相模原市が指定するCSVファイルで取り込み可能である。本管調査記録調査表やマンホール本体記録表などの付属資料は、ファイリングデータとして下水道維持管理システムに搭載予定である。

図2の規則に従ったデータで提供されることを想定しているが、詳細については、相模原市と協議の上決定するものとする。また、維持管理情報の取り込みの際、下水道維持管理システムで管理している各施設の管理番号にてマッチングを実施しているため、維持管理を実施する際は、相模原市が提供する下水道管路施設データを起点として実施すること（図3）。

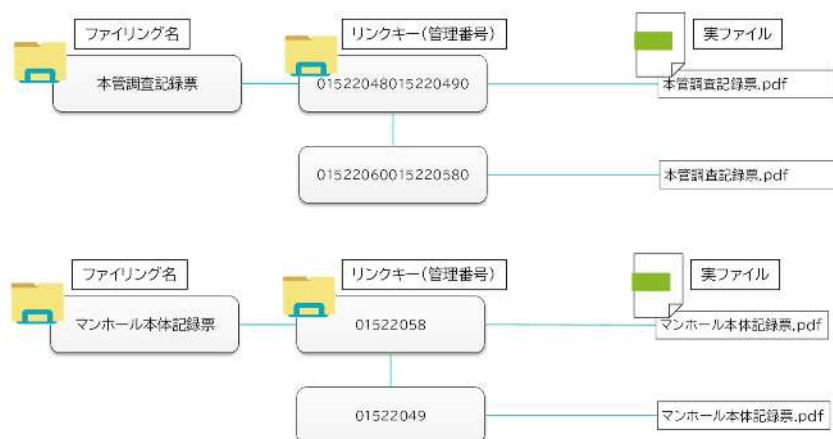


図2 ファイリングのデータ格納仕様（例）

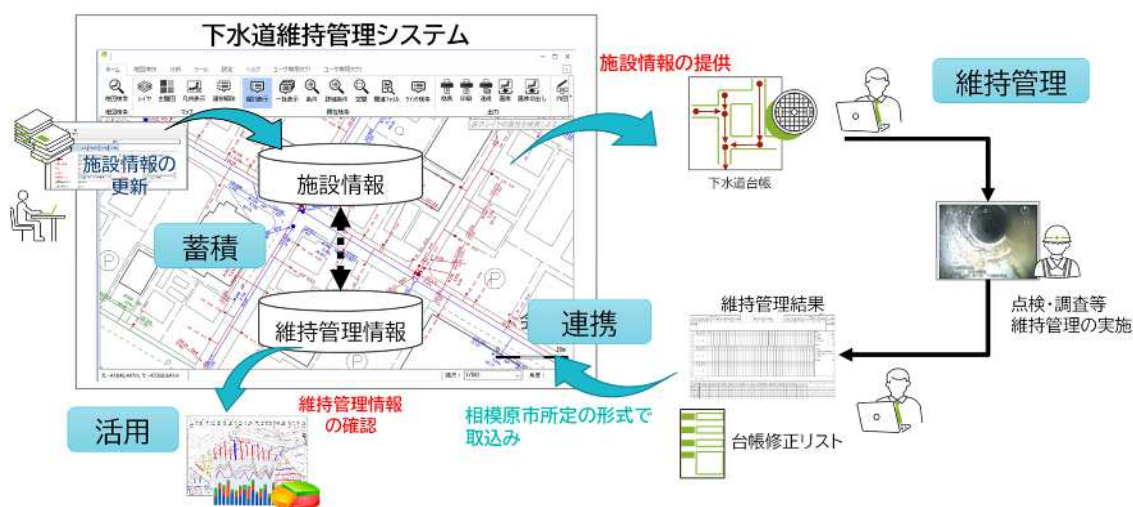


図3 下水道維持管理システムとの連携イメージ